

成果の説明書

(氏名) 丸山奈穂	(学部)地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>① 研究</p> <p><u>調査データの収集</u></p> <p>高崎市民の移民および移民の増加に関わるインバウンド観光の増加に関する意見を知るためにオンラインによる調査を実施し、50名程度から回収することができた。コロナ禍において、世界的に人種差別が顕在化していることから、高崎市でも近年増えているベトナム人技能実習生との関わりや彼らへの印象について回答してもらった。</p> <p><u>論文の執筆、投稿</u></p> <p>富岡製糸場およびその周辺地域における女性の表象についての論文 (Journal of Sustainable Tourism)、および外国人街における民族関係と観光地化に関する論文 (Journal of Sustainable Tourism) が受理された。また、移民の増加とインバウンド観光に関する地域住民の考えに関するディスカッションペーパー (地域政策学会) を執筆した。</p> <p>② 教育</p> <p><u>オンラインによる授業の実施</u></p> <p>前年度より、オンラインを使った試験は実施していたが、コロナ禍において全面オンライン授業となったことで、Zoom を使って新たな授業形態に取り組んだ。オンラインであっても学生同士がディスカッションできるようなルームを作り、そのルームを使ってプロジェクトを実施した。また、Youtube などの媒体を組み合わせることで、できるだけ受講しやすくなるように工夫した。</p> <p><u>小グループによるディスカッション</u></p> <p>対面授業となった演習 I では、密をさけるためゼミを二つに分けてディスカッションを行った。時間的制限がある反面、少ない人数で話し合うことで一人ずつがしっかり考え発言する機会となった。</p> <p><u>Google Form の活用</u></p> <p>演習 I (グループ研究)、演習 II (卒業論文) で行う調査はすべて、Google Form を利用して実施した。授業内で使い方の説明やデータ処理の方法を確認することで混乱なくスムーズに進めることができた。また、Google Form を利用することでデータ収集にかかる時間が短縮される、遠方にいる人からもデータを収集しやすい、季節的な要因に左右されにくい (例：冬季の間は雪が降りやすい地域での調査等も、気候に左右されることなく調査ができる) 等、利点も目立った。もちろん対面による調査の利点もあるが、今後もオンライン調査の利点を生かしていきたい。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>教員免許講習講座：オンラインでの講義を実施した。</p>	

3 次年度以降の計画・抱負

次年度も、しばらくは感染症対策をしながらの講義、調査になることが考えられるので、少人数でできるところは実施するなど工夫をしたい。昨年度は観光地の持続可能性に関する講義に時間をかけたので、今年度はそのコンセプトをコロナ収束後の観光地にどう生かせるかを授業にとりいれたい。また、コロナ禍における観光旅行への考えに対する調査を行いたい。